（様式第１号）（第２条 16 号関係）

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

１　評価機関

名称： コスモプランニング有限会社	所在地： 長野市松岡１丁目 35 番５号
評価実施期間： 令和 ５年 ７月 １日から令和 ５年11 月 22 日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） Ｂ１８０１４、０５０４８２	

２　福祉サービス事業者情報（令和５年１０月現在）

事業所名： （施設名）　長野市豊栄保育園			種別： 保育所
代表者氏名：　市長　荻原　健司 （管理者氏名）　保育・幼稚園課課長　丸山　隆文			定員（利用人数）： 60 名（21 名）
設置主体：　長野市 経営主体：　長野市			開設（指定）年月日： 昭和 32 年 ４月 １日
所在地：〒 381-1222 長野県長野市松代町豊栄２７９８－１			
電話番号： 026-278-2162			FAX 番号： 026-278-2162
電子メールアドレス　：　—			
ホームページアドレス：　http://www.city.nagano.nagano.jp/			
職員数	常勤職員：　9 名	非常勤職員:　15 名	
専門職員	（専門職の名称）　名		
	・園長　1 名	・給食調理員　7 名	
	・保育主任　1 名		
	・保育士　15 名		
施設・設備の概要	（設備等）	（屋外遊具）	
	・乳児室　…　1 室 ・保育室　…　3 室 ・遊戯室　…　1 室 ・調理室　…　1 室 ・事務室　…　1 室 ・便所　…　1 室	・滑り台	

３　理念・基本方針

○長野市保育理念（保育所型認定子ども園を含む）

子どもの健やかな心身の発達を図り、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う。

○児童福祉法に基づき、保育を必要とする子どもを保育することを目的とする。

○子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進する。

○長野市保育基本方針

○安全で安心できる生活の場を整え、子どもが自己を十分に発揮できるようにします。

○専門の資格を持った職員が養護と教育を一体的に行い、子どもの発達を援助します。
○保護者の気持ちを受け止め、共に子育てをします。
○家庭と連携を図りながら、子育ての悩みや相談に応じ助言するなど、地域における子育て支援の拠点として、社会的役割を果たします。
○保育を実践するにあたっては、「全体的な計画」に基づき、一貫性を持って子どもの実態に応じた柔軟な保育を展開します。

○豊栄保育園保育目標

と…友だち　大好き
よ…よく見て　よく考えて
さ…最後まで
か…頑張る
豊栄っ子

4　福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

豊栄保育園は長野市が直接運営する 28 保育園(内休園 2 園)と 2 認定こども園のうちの 1 つで、昭和 32 年 4 月に開設された。

当園は旧松代町により町立保育園として豊栄小学校体育館跡地に設立され、昭和 40 年 9 月から始まった松代群発地震による園舎改築のため松代町旧豊栄支所(旧豊栄支所)に移転した。その後、松代町が昭和 41 年 10 月、長野市、篠ノ井市等、2 市 3 町 3 村で昭和の大合併をしたことにより長野市に移管された。昭和 53 年 12 月には園舎が全面改築され、昭和 55 年のプールの新設、平成 20 年のホール屋根の一部吹き替え、平成 29 年の下水道工事、平成 31 年 3 月耐震補強工事、令和 4 年 3 月木造倉庫工事等が行われ現在に到っている

豊栄地区は長野市の南東部にあり、長野市中御所一丁目の国道 19 号交差点から地蔵峠を経て上田市真田町に続く主要地方道長野県道 35 号長野真田線に沿った、市街地より 30 分ほどの北に面した起伏に富んだ傾斜地にある。近くに関屋(蛭)川が流れ、遠く西には日本の屋根と称される北アルプスが眺望でき、また、皆神山を始めとした山々が周りを囲み風光明媚な場所となっている。かつては養蚕を中心に、酪農、雑穀作りが盛んであったが、都市化、工業化の進展する中で、兼業化が進み、現在道路網の整備、文化活動の興隆、生活環境の整備、地域の活性化等に松代町住民自治協議会の一つの区として取り組んでいる。

当園はその長野真田線のすぐ脇にあり、隣接して豊栄小学校があり、学校の隣には酒呑弥勒や蛙合戦で有名な明徳寺もあって、園の子どもたちの散歩や遊びの絶好のフィールドとなっている。小学校や明徳寺には約 200 本近い桜の木があり春の花、秋の紅葉と、地域の名所となっている。また、近くには JA のセンター、郵便局、地区公民館などもある。当園周辺は関屋(蛭)川や山々などの自然が豊かで、子どもたちの散歩や探索の場も多く、散歩のエリアも親水公園、小学校、神社、お寺、里山などに及び、散歩コースも年齢に合わせて幾つか設定されている。平成 30 年 10 月には「信州型自然保育(信州やまほいく)」の団体として普及型の認定を受け、今年度更新をした。当園は「信州型自然保育」の認定を受ける以前から豊かな自然に親しめるように散歩などの園外保育を多く取り入れており、認定の更新により、更に、色々な工夫を加え多くの感動や発見、体力作りに繋げようとしている。

こうした中、当保育園の隣接地には園の多くの子どもたちが就学する豊栄小学校があり、「長野乳幼児期の教育・保育の指針」の「基本方針Ⅱ『育ちをつなぐ』幼・保・小の連携」の中の「取組の方向性Ⅱ－３　小学校との連携の充実」に沿い、年長の子どもたちはその小学校のプール活動や運動会に招かれ、また、児童による読み聞かせなど、小学生と定期的に交流している。更に、学校区内となる松代中学校の生徒も職場体験などで来園し子どもたちと触れあっている。

現在、当園には０歳児2名・１歳児3名・２歳児1名のりす組、３歳児3名と４歳児6名のぱんだ組、５歳児6名のきりん組(令和5年8月1日現在)の三つのクラスがあり、職員はそれぞれの子どもの発達段階に合わせて作成された令和５年度「全体的な計画」の「保育方針」に掲げた「一人一人の気持

ちに寄り添い、安心して自己発揮できるようにします」「安全な環境を整え、心身共に健康な生活ができるように援助します」「保護者との連携を大切にし、協力し合って子育てをします」「地域に開かれた保育園を目指し、子育て支援や世代間交流を行います」「豊栄地区の自然を取り入れた保育を行います」の実現に向けて、子どもの発達の特性や発達過程を理解し、また、その発達及び生活の連続性にも配慮しつつ子どもたちと生活や遊びを共にしている。地域の人々の子どもたちに寄せる期待は大きく、子どもたちは、中山間地の恵まれた自然、豊かな風土、人情味あふれる人々などを背景に社会体験をはじめとした様々な活動を行っている。

また、当園では保護者のニーズに合わせた様々なサービスを提供しており、仕事と子育ての両立等を応援するための時間外保育や一時預かり、おひさま広場等を実施している。当園では 8:30 以前と 16:30 以降のクラス合同で行う保育を行っている子どもが数名いる。一時預かりは保護者の就労・保護者の疾病・保護者の育児に伴う心理的、肉体的負担の解消等による預かり保育を行うサービスで、当園でも希望に応じ子どもを受け入れている。更に、おひさま広場では未就園児と保護者対象に園開放と子育て相談を行っている。

当園では「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の目標「かがやく笑顔で　げんきに遊ぶ　しなのきッズ」及び「第二期長野市子ども・子育て支援事業計画」に沿いビジョンを明確にしており、園の中期計画として、長野県自然型保育(信州やまほいく)の更新を受け実践を積み上げる、長野市運動プログラムの充実、運動と遊びのプログラムの活用で運動機能の育成を図ることなどを掲げ積極的に取り組んでいる。また、職員は、当園の事業計画のうちの今年度の重点課題である「保育内容の充実」として自然を生かした保育を行うこと、地域資源と人材を生かした保育を行うこと、異年齢保育を充実させること、小学校との連携の推進、やまほいくの認定を受けることを掲げ、保育所保育指針で示している「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」という育みたい資質と能力の３つの柱を一体的に育むように、子どもたちが生涯を通して必要になる生きる力を培うために熱心に取り組んでいる。

５　第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回が２回目(令和元年度)

６　評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

1）豊かな自然環境を活かした活動

幼児期において自然との関わりがもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、子どもの心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、子どもが自然との関わりを深めることができるよう工夫することは大切であるといわれている。

当園は山々や田畑に囲まれ、近くの川の水も澄み、四季折々の移り変わりを身近に感じられる自然豊かな環境にある。平成 30 年 10 月に「信州型自然保育（信州やまほいく)」の認定を受け、今年度更新をした。年間を通じて散歩などの園外活動を多く取り入れ、自然に親しんだ生活を日々送っている。散歩マップを活用し、毎日のようにあぜ道、山道を巡り、小学校やお寺、親水公園までクラス別や異年齢で一緒に出掛け、身近な草花、果実、昆虫、小動物に触れて遊び、その中で感動や発見を得て、体力も向上させている。近くに畑を借り地域の方々の協力を得てサツマイモを栽培し、稲の栽培やタケノコなどの季節の山菜の収穫などにも取り組み、園庭では夏野菜を育て、成長観察や収穫の喜びを体験し、収穫した物は給食に取り入れ味わっている。また、園庭では七夕飾りを燃やしたり、焼き芋会、どんど焼き、かまど等で収穫したお米を炊いたり、もち米を蒸し餅つきを行ったりと、身近で火を使う伝統行事も体験している。異年齢との関わりを多く持つ中で、年上児は思いやりや優しさが育ち、年下児は年上児に憧れ真似をしてやってみようとする姿が生まれ、一緒に協力し恵まれた自然の中で楽しく過ごしている。

当園では自然が常に変化することを考慮し、散歩などの下見もしっかりと行い散歩時には地域の方々と挨拶を交わし、大人と関わることの楽しさや喜びを感じることで社会性も育んでいる。

散歩マップには危険箇所や危険動物の出現場所などをしっかりとマークし、安全で事故のない保育に取り組んでいる。また、信州やまほいくのポータルサイトでも「活動内容」を写真も豊富にタイムリーに伝えており、加えて、「子ども達のきづき」「事例に対する保育者の思い」でも詳細に振り返りをしており、次の取り組みへの糧としている。

当保育園の「全体的な計画」でも教育面の「環境」で「水、砂、土などに触れ五感を使って感触を楽しむ」「身近な動植物や自然事象に関心を持ち遊びに取り入れたり、水、砂、土などに触れ、五感を使って感触を楽しむ」「身の回りの自然に触れ興味や関心を持ち、取り入れて遊ぶ」「身近な動植物を見たり世話をしたりしながら親しみを持つ」「身近な動植物に親しみを持ち、作物を育てたり、味わったりする」とそれぞれの年齢に応じて設定しており、心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもてるようにしている。

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」に「基本方針Ⅰ『育ちを豊かにする』教育活動の推進」と掲げ、「取組の方向性Ⅰ－１　自然環境を活かした体験活動の充実」の中で「命の大切さ、ものの美しさに気付く豊かな感性を育む」、また、「見て、触れてなど、全身の感覚を使って体験ができる環境を整える」としており、職員はそれらを具体的に実践している。

2) 地域の人々との交流

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」に「基本方針Ⅳ『育ちを支える』家庭・地域との連携」と掲げ、「取組の方向性Ⅳ－２　地域交流活動の充実」として「地域住民が教育・保育活動に参加することで、地域とともに子育て支援を行う教育・保育施設を目指す」「豊かで特色のある様々な地域資源を十分に活用し、『社会力』の基礎育成に取り組む」などの目指す内容を示しており、当園ではそれらに沿い具体的に活動している。

当園の事業計画には「実習生・職場体験・ボランティアの受け入れ」「世代間交流事業」を掲げ、また、「全体的な計画」では「保護者との連携」「地域との連携」「小学校との連携」について文書化し実践に繋げている。園を中心とした、公園や小学校、神社、お寺などのイラスト入りのフィールドマップがあり、午前中に散歩に出掛け、地域の人々に挨拶をし、大人との関わりもできるようにしている。おひさま広場での未就園児との触れあい、小学生との交流、職場体験学習の中学生の受け入れなども実施されている。地区の方の田んぼで稲を育てたりサツマイモの栽培をしたり、世代間交流で地区の高齢者と触れあい、焼き芋会、どんど焼き、しめ縄づくりなどの指導も受けている。また、ボランティア（ひまわりの会、おしゃべりうさぎ）によるおはなし会なども定期的に開き、長野市を拠点とするプロサッカーチームによるサッカー教室も行われ園庭で楽しんでいる。年長児は同じ地区の東条保育園との交流の機会を持ち、一緒に川遊びや山登りをして友達としての関わりを持っている。更に、地域のイベント(JA 主催の絵画展示、松代美術展)にも参加しており、子どもたちは幅広く地域の人々と触れあっている。当園としても子どもが社会体験を積む具体的な取組みを実施することで、地域に対して、保育所や子どもへの理解を深めるための働き掛けも行っている。

保育所保育指針の「家庭及び地域社会との連携」では、「子どもの生活の連続性を踏まえ、家庭及び地域社会と連携して保育が展開されるよう配慮すること。その際、家庭や地域の機関及び団体の協力を得て、地域の自然、高齢者や異年齢の子ども等を含む人材、行事、施設等の地域の資源を積極的に活用し、豊かな生活体験をはじめ保育内容の充実が図られるよう配慮すること」としている。

地域の過疎化が進み、園児数も減少傾向にはあるが、三世代家族もあり、昔ながら地域で子どもを大切に育てようという気風は変わらず、当園の子どもたちは乳幼児期に両親をはじめ、周囲の人々からたくさんの愛情を注がれて育っており、家庭では得られにくい部分の人間関係を地域の広がりの中で学び、人としての協調性、社会性、命の尊さ、弱者への思いやりなどを身につけている。

3) きめ細かく丁寧な保育の実践

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」に「基本方針Ⅲ『育ちを守る』教育・保育環境の充実」と掲げ、「取組の方向性Ⅲ－１　きめ細かく丁寧な教育・保育の推進」では「情緒が安定し安心して自己発揮ができる環境を整えるとともに、子ども一人一人の発達を捉えた教育・保育の実践」

「丁寧なまなざし、丁寧な対応、丁寧な準備を基本に、子ども一人一人の思いを受け止め、きめ細かな教育・保育を実践する」としており、当園ではそれらに沿い具体的に活動している。

現代は、少子化や核家族化、地域のつながりの希薄化等により、子どもたちが群れて遊んだり家族や地域の中で様々な人と関わったりしながら、自ずと学んでいく機会が減少しているといわれている。したがって、子どもたちが多くの時間を過ごす保育施設の役割は非常に大きいとも言われている。こうした流れの中、人間関係の基礎を成す乳幼児期には、より一層、子どもたちへの丁寧な関わりが必要だと考えられている。日常的な場面における保育者と子どもの一対一のやり取りの中で子どもの表情や仕草、あるいは、何か意味が含まれる言葉等、まだ十分に表現されていないところをすくい取り応答することの重要性が指摘されており、言葉にならないところを感じ取り、子どもの在り様を尊重して応答する具体的な関わりが丁寧な関わりではないかと言われている。

当園の「全体的な計画」の保育方針に「一人一人の気持ちに寄り添い、安心して自己発揮できるようにします」と掲げ、職員は子どもの意思や思いを大切に受け止めきめ細かな保育を行っている。

一人ひとりの発達過程や家庭環境などについて保護者記入の「家庭の調べ」を基に個別面談により情報収集し、健康状態・発達状況、家庭環境などを把握している。一人ひとりの発達に応じて、「個別支援計画」「個別指導計画」等を作成し、一人ひとりの要求に答え、安心して自分の気持ちや考えを表現できるように支援している。特別な配慮が必要な場合は保護者ニーズを把握し、職員会で話し合い、共通理解の下、全職員で連携を取り、絵カードや図を使用して関わるなど、子どもとコミュニケーションを取れるように工夫している。表現が十分できない子どもには、一人ひとりの気持ちや考えを大切に表情や仕草から思いを汲み取り、分かりやすく話し、せかさず安心して自分の気持ちが伝えられるように配慮している。子どもの要求を受けとめ必要に応じて、抱っこをする等スキンシップを通して安心して思いを表現できるようにしている。また、研修を通じて、声の大きさ、話し方に気を付け、否定的・高圧的な言葉は使わず、肯定的な言葉を多く取り入れ、思いを受け止めている。

子どもの年齢や発達に合わせ、主体的に活動ができ興味・関心が持てるように遊びの環境を整えている。幼児には前日に活動予定を伝え、子どもたちが理解して自主的に行動できるように働きかけを行っている。異年齢の子どもたちが一緒に遊ぶことから、固定遊具や玩具の使い方には安全面で職員が気を配り、遊び方、おもちゃの貸し借り等、言葉で伝え、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じるようにしている。また、順番、挨拶、物を大切にするなど職員が手本となり、理解していけるように接している。園外活動では特に危険が伴うので、危険箇所や危険動物など、子どもにも分かりやすい写真入りのお散歩マップを作成・掲示して注意を促し、約束をしっかり守ることを教え、安全に注意を払い、子どもを信じ主体性を大切にした保育を実践している。

4）異年齢保育による学びの広がり

当園での異年齢保育では子どもたち同士の学びの機会が増え、友達の幅も広がるなどの効果が見られている。当園には０歳児２名と１・２歳児４名のりす組、３歳児３名と４歳児６名のぱんだ組がありそれぞれ異年齢保育を行っている。

０ 歳児は月齢に合わせた個別指導計画を作成し、「保育マニュアル」に基づき一人ひとりの発育状況、興味・関心に合わせた援助を行っている。安心して過ごせるようにおんぶや抱っこをし、また、スキンシップを大切にし愛着関係を築き、情緒の安定を図っている。一対一の関わりを大切に、子どもの表情や仕草から欲求を汲み取り、したい気持ちを受け入れている。ハイハイやつかまり立ちができるように、コーナー分けを行うなど環境を整え、発達や興味に合わせた手作り玩具を用意し、安全で安心して過ごせるように配慮している。１・２歳児と一緒に生活を送り、散歩に出かけることも多いので、年上の子どもの行動を真似してやってみようとする姿や体力（歩く力）がつき、遊びへの興味が広がっている。

１・２歳児についても、子どもの成長、状態に合わせた個別指導計画を作成し、「保育マニュアル」に基づき保育を行っている。一人ひとりの発達状況を把握し、自分でやってみようとする気持ちを大切に見守りながら、必要に応じて援助を行っている。戸外遊びや散歩時にも一人ひとりの興味・関心に合わせて、満足して遊べるように時間を確保して見守っている。園内でも玩具を準備したり手作りのコーナー等を工夫し主体的に遊べるようにしている。言葉ではうまく伝えられない時や友達との関わり方を保育士が仲立ちし、気持ちの代弁や欲求を受け止めている。幼

児と一緒に戸外で遊んだり、時には散歩に一緒に出掛けたりしている。また、世代間交流での高齢者との関わり、中学生の職場体験などを通して触れあう機会を大切にしている。幼児と一緒に遊ぶ中で年上の子どもたちの真似をしてやってみようとする姿が育ち、また、年下の子どもと関わったりして自然な形での異年齢交流を行っている。

ぱんだ組は３歳児３名、４歳児６名の１クラスで保育を行っている。年齢別に指導計画を作成し、年齢の保障をしつつ活動を行っている。３歳児については年上児との生活の中から生まれる真似してやってみようとする意欲を大切に、一人ひとりの発育状況を把握し、成長に合わせた援助を行っている。４歳児は一人ひとりの思いを大切に受け止めながら友だちと一緒に制作や川遊び、泥んこ遊びなどを行い、協力する楽しさや喜びが育つように援助している。

総じて、年下の子どもは年上の子どもを見て、積極的に真似をして年上の子どもに近づきたいと思い、向上心が芽生えている。また、年上の子どもに優しく接してもらうことで、自分よりも年下の子どもに思いやりの気持ちを持って接することもできている。更に、年上の子どもは教えたり世話をしたりする役割を担うことにより年上としての自覚が芽生え、年下の子どもから慕われることによって自信にも繋げている。子ども同士の関わりによって、コミュニケーション能力の高まりも見られている。

年上の子どもは自分が手本になることを自覚するため、行動にも変化が見られ、年下の子どもは年上の子を目標にして行動するといった相乗効果も生まれている。違う年齢の友達と仲良くすることによって、友達の幅が広がり、年齢に関係なく友達を作ることもできており、その中で、遊びの楽しさやルールを体験しさまざまなスキルを身につけている。

◇改善する必要があると思う点

1)防災への更なる取り組み

災害が発生した場合、保育士は子どもたちを保護し、被害を最小限に抑えるための行動が必要で、子どもたちに不安を与えないよう、災害に対して冷静な態度で臨むためには普段から準備をしておくことが重要であるともいわれている。また、災害はいつ起こるかわからないことから、防災対策は管理者などの一部の職員だけでなく全ての職員が的確に行動できるよう周知・徹底する必要性も叫ばれている。

公立園統一の「危機管理マニュアル」があり、各種災害に対応するフローチャートも図示され、災害時の体制が整えられている。また、災害時の防災ハザードマップもあり、長野市業務継続計画(BCP)に沿い、被災時における当園としての対策も練られ、地域の人々との協力体制も整備している。当園の立地する地区は土砂災害警戒区域（イエローゾーン）になっているため避難計画を基に避難訓練を実施し、避難経路、場所の確認を行い、避難場所や関係機関との連携をとれるようにしている。保護者とは「保育業務支援システム」での安否確認や引き渡し訓練を実施している。職員の非常参集訓練も行い、職員の非常招集や安否確認の体制も整えている。

子どもばかりでなく大人も実体験をしていない限りにおいては災害の怖さや性質について知ることは難しいといわれている。基本的には大人が正しい知識を身に着け、また、適切な行動によって子どもたちの安全を確保する必要があり、日頃から「自分の命を守る力」を身につけさせる安全教育も重要ではないかと思われる。

今後、災害時、子どもたちがどのような危険に遭う確率が高いのか、また、災害の大きさによってどのような被害が起こるのかなど事前に想定し、危険箇所などのチェックも強化しつつ、「今、災害が起こったら私はどう行動するのか」を職員一人ひとりが更に意識することで有事に備えられていくことを期待したい。

7　事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目の評価対象Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象Ⅱ組織の運営管理、Ⅲ適切な福祉サービスの実施（別添１）並びに内容評価項目の評価対象Ａ（別添２）

８　利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添３－１）

９　第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

（令和　５年　11 月　20 日記載）

第三者評価を受審するにあたり、改めて自園の生い立ちや地域の大切な保育園であること、今まで積み重ねてきた事項等職員一同再認識し、保育全般の再確認からスタートしました。また、保育理念、基本方針、園目標を基に子ども達がどう育っているか、子ども達のためにどう支援できているか、常に職員間で意見を出し合い悩みながら進めてきました。

特に良いと評価していただいた点

- 自然豊かな環境での園外活動
- 異年齢との関わりや活動
- 野菜の栽培や収穫などの取り組み
- 信州やまほいくの取り組み

保護者の皆様をはじめ地域の方の協力が基盤にあり恵まれた環境が何よりの良さだと感じています。園の取り組みは、今まで職員がやっていたことが認められ種をまいてから花を咲かせてきている時だと思います

改善する必要がある点

- 防災への更なる取り組みで、職員は災害について危機管理意識の向上や適切な行動ができるように地域の特性や危険個所の把握をして、こども達を災害から守ることができるように検討してまいります。

第三者評価受審にあたり担当者から丁寧な説明や適切なアドバイスをいただき大変感謝しております。専門的・客観的な立場から評価していただいたことについて具体的な改善点が把握でき、課題となる項目が明確となり質の向上に結びつけることができました。

当園の強みと課題を示していただきありがとうございました。